

今日は、大導師さまのご生誕の月でございます。

御法号に「常精進」とございますけれども、日々怠ることなくご修行された大導師さまでした。

私もずっとご一緒させて頂いて、大導師さまの日常を目の前で見させて頂きました。

その日常は、何ごとも毎日1分も変わらないのです。

起きる時間、そして着替える時間も同じで、それぞれにかかる時間も同じなのです。

荒神さまをお給仕される時も、印などついてないのに、同じ場所にぴったりとお立ちになられるのです。

母が用意した朝食も、同じように「今日もおいしいなあ、ありがとう」と感謝して召し上がられて。身支度を終えられ、当時、山中さんという人が運転手だったのですけれども、山中さんの車が着いた時に玄関に立っていらっしゃるのです。

山中さんも、毎日同じ時間帯に到着され、大導師さまと同じく時間に厳しく本当に誠実な方でした。だから大導師さまが一番信頼されていました。

毎日同じ事を繰り返すということは、本当にすごい事だと思います。

ですから逆に言いますと、コロコロ変わる人に対して、大導師さまはとても心配されていました。

お山の時でも、同じ時間に起きられ、同じように着替えてお経をあげられ、身支度を整えられて。その日その日で変化するわけではなく、ピッタリ同じなのです。

皆さんは「常に精進する」ということを非常に難しく考えがち

ですけれども、そんなことはなくて、日々同じ事を繰り返すことが修行なのです。

コロナになってああでもない、こうでもない、日常が変わってしまった。コロナによって日常が変わったからって、私達、朝夕のお経、変わるはずないですよ。

そういう法の部分で考えれば、コロナだろうがなんだろうが、私達のやるべきことは同じなんです。これが「常精進」です。

これがとても大事だという事を、大導師さまは私達に残されたのです。

ぜひ皆さんも、大導師さまに、縁のあるこの日に、変わらない事の尊さ、同じ事を繰り返していく事の尊さをお誓いしてご修行して頂くことをお願いします。